



# シリーズ タンチョウ Vol. 364

鶴居村教育委員会社会教育課主幹  
(タンチョウ自然分野担当)

音 成 邦 仁

☎64-2050 / FAX64-2900

鶴居 タンチョウ

検索

## タンチョウの食害防止対策～新たな挑戦～

鶴居村野生鳥獣被害対策協議会では、毎年5月中旬から約1ヶ月間、タンチョウによるデントコーンの種や芽の食害防止対策を実施しています。若いタンチョウが定着する下久著呂地区と下雪裡地区で、地域団体や住民有志が“畑からの追い払い”を中心に汗をかいています。今号では、下久著呂地区での取組と結果についてお知らせします。

昨年度までと同様に、人が近づいたりドローンを近づけたりすることでタンチョウを畑から追い払いました。さらに今年度は、子どもたちの追い払い体験と忌避剤の効果検証も実施しました。追い払いに参加した子どもたちは、自然体験活動グループ“サルルンガード”のメンバーで、5、6人ずつ計3回体験しました。いつもと雰囲気が違うと感じたのかタンチョウは早々に飛び去ってくれました。農家さんの思いを聞く機会もあり、子どもたちなりにこの取組の意味を理解してくれたようでした。忌避剤は「食べるとまずく感じる」薬で、毎年多くのタンチョウが飛来する区域内の畑8ヶ所約61町歩で忌避剤をまぶした種をまいていただきました。

追い払いは、191回延べ441羽に対して実施しました。前年度と比較すると回数は約2/3、延べ羽数は約1/3となり、回数もさることながら1回当たりの羽数が大きく減少しました。特に1歳の個体は、昨年度は延べ790羽と実に全追い払い羽数の6割以上を占めたのに対し、今年度は延べ98羽と約2割にとどまりました。1歳個体を中心とする若い個体の減少が、今年度の追い払いの減少の大きな要因と言ってよいでしょう。

一方で忌避剤の効果はあったのでしょうか。播種当初は地区全体で6～7羽確認されていた1歳個体が、5月28日以降は最大2羽、6月2日以降は1羽しか確認されず、「食べたらずい」ので食べなくなった可能性があります。ただ、例年日を追うごとに羽数は減る傾向にあり、昨年度は最大で20羽以上の1歳個体が確認されていたので、今年度はもともと定着する個体が少なかったことになります。本当に効果があるのか、次年度以降も検証を継続したいと思います。



タンチョウに向かって走る小学生たち  
(↓は飛び去るタンチョウ)



ドローンを使った追い払い  
(スマホ画面上の↓にタンチョウが写っています・かなり近づかないと逃げない)